2011年3月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第410号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

ウェブ　デ　ブック　最新トップ画面（3月1日より）

電子書籍は地方出版を救えるか？

文・乾　孝康

1）地方出版の現況

出版科学研究所の調査では2010年の電子書籍を除く出版物の推定販売額は、過去20数年で最低の1兆8748億円にとどまっています。

その影響で2010年の出版・印刷業界倒産動向調査（帝国データバンク）によると出版業者の倒産は2001年と比較すると150％に増加し、書店の倒産数は4年連続で毎年30件を超え、印刷業者の倒産は過去10年間で2番目に多い倒産件数を記録しています。

つまり、本を含む『紙媒体』の減少という現実が、今の出版関連業界を経営的に苦しめる要因になっているのだと思われます。

そして、我々のような地方の小出版社の多くは表面に表れる数字以上に厳しい現実に直面しているのが現況です。

しかし、我々の出版社業界が担っている貴重な『文化の伝承及び伝播』という使命をなおざりにすることは出来ません。利益を確保して出版社を安定経営をするという面と、地方文化の担い手として文化の維持向上という社会貢献の二つの相反する課題を克服して、地方の出版文化を守ることが我々の重大な責務だと考えています。

2）電子書籍と地方出版

徳島県図書館協議会の調査では、毎日のようにモバイル端末機で小説や文芸作品などの電子書籍を読む高校生は34％も占めています。そして、1時間以上読書している高校生についても、印刷された本より電子書籍を画面で読んでいる割合が高く、若者たちに新たな読書スタイルが普及しているのが現実です。そして、ネットマイル社（東京）が2010年7月に500人の電子書籍の読者に行った全国的な調査でも、若年層に電子書籍の利用が広がっているとのデータを発表しました。

例えば「電子書籍にかける1カ月の平均金額が1000円以上」と答えた人の割合は、50代以上が4.8％、40代が10.3％、30代が10.9％、20代以下が17.7％と、年齢に反比例して若い世代ほどその比率が高くなっています。

つまり、若い人ほど電子書籍の利用頻度と利用金額が高い、という現実を直視すると、地方小出版社も新しく電子書籍を活用し、次世代を担う若い世代にも幅広い活用を目指さないと『地方出版文化』に関して輝かしい未来は無いと思います。

3）紙の書籍と電子書籍

電子書籍の特性を簡単に羅列すると

①単なる文字と画像だけでなく音声や動画を活用することで新しい表現が可能であり、特殊教育の分野にも幅広く利用が可能。

②電子書籍は基本的にカード決済等の電子決済が可能で、書店に配本及び在庫確認、請求書発行、集金などの煩雑な業務が不要。

③用紙・印刷・製本代金が不要なので、製造原価が紙の本に比べて安い

④発送及び返品等の送料が不要。

⑤データ修正だけなので再版及び修正費用が安い。

⑥電子書籍は電子書籍配信サイトにデータで保存しているので、在庫切れ及び良書の絶版などが無い。

⑦地方の小出版社にとって金銭の負担が大きい在庫によるスペース確保及び、長期資金の休眠化を防ぐ。

4）電子書籍は地方出版文化を守れるか？

いま、都会の有名大手の出版社が、地方の有望な作家の発掘や地方文化の発展といったスローガンを掲げて地方の自費出版界に進出しています。本の製造単価が地方で製造するより高くても「都会の有名大手出版なら宣伝予算も多くて、たくさん売れます。」とか「電子書籍も同時に出版しては如何ですか？」というような地方の作家が喜ぶセールストークを駆使して新たに地方出版をターゲットにしています。そして、電子出版の分野においても大手の電子書籍販売サイトが各地方の出版社を対象として電子書籍の出展を積極的にアプローチをしています。

しかし、大手の電子書籍販売サイトは書籍の出展点数の多さを競い合い、大手有名出版社の売れ筋の書籍を販売することを主眼と考えていますので、小さな地方出版の電子書籍の本が膨大な『電子書籍の海』で埋没してしまうことが必至だと思います。

それらの地方出版に対する外圧に対抗して我々の地方出版文化を守るには、『地方出版をターゲット』とした電子書籍販売サイトが必要不可欠だと思われます。でも現実は経済的に基盤の弱い小さな地方の出版会社が単独での電子書籍販売サイト構築および出展書籍の確保は難しいと思います。

しかし、この㈱地方・小出版流通センターを手本として各地方の出版社が協力をして『地方出版の電子書籍市場』を創造して守り育てることが出来れば、新たな地方文化のニーズに応え、地方文化の発展に大きな貢献が出来ると確信しています。

2011年のトレンドは『地方からの変革と情報発信』と考えています。

今、我々、地方の小出版社が電子書籍の分野で結束することが出来れば、価値の有る地方文化を広く発信できる大きな進化に繋がることを確信しています。

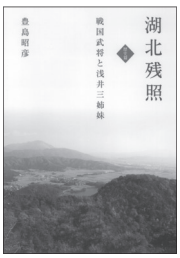
（いぬいたかやす／株式会社　教育出版センター代表取締役）

http://www.web-de-book.com

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『湖北残照＜歴史篇＞　－戦国武将と浅井三姉妹』●豊島昭彦著



戦国を彩る人物たちは近江に多くの足跡を残した。この地に生れた浅井長政、茶々・お初・お江三姉妹、三成。拠点にした信長、秀吉、井伊直政。後者が勝者であるのに対し、前者はいずれも過酷な運命を強いられた。日本のエネルギーが集中した近江。その照り返しが今も色濃く残っているという。彼らが歩いた道をひたすら歩き、同じ景色を眺め、心境を思いやる。小谷城を逃れた三姉妹の足取りを記録する資料は残っていない。小谷城の南東、現長浜市にひっそりと佇む実宰院を訪ねた著者は、三姉妹がそこで養育されたとの、定説とは異なる伝説と、それが地元の人々の心にしっかりと息づいていることを知り喜ぶ。

◆1680円・A５判・249頁・**サンライズ出版**・滋賀・2010/12刊・ISBN978-4-88325-435-4

『ふかい森の奥の池の静謐　－古代・祝詞・スサノオ』●上村武男著

尼崎市の神職の家に生まれた著者だが、学生だった頃東京のうなぎ屋で、かの吉本隆明氏に「うえむらさん、祝詞論をかいてくださいよ。それは、ぜひ、書いてくださいよ。」と言われたという。その一言が深く著者の胸に刻まれ、以来４０年、宿願だった本書が上梓された。祝詞論といっても、著者は神主として日々それを声に出して唱える立場にあり、何より祝詞はまず〈声調〉として捉えられる。そして、古典祝詞の大祓詞や出雲国造神賀詞を論ずるところでは、祝詞が文学として、言語表現として古典詩歌と同じように感受されていて、意訳も試みている。巻末には日記ふうに綴られた「祝詞論へ向かう日々」「スサノオ考ノート」が収録されている。

◆2415円・四六判・277頁・**白地社**・京都・2010/12刊・ISBN978-4-89359-105-0

売行良好書　期間：2011年1月16日～2月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『クラゲに学ぶ』2520円・長崎文献社　(2)『おから百珍』2200円・ＧＵ企画　(3)『マビヨン通りの店』2100円・編集工房ノア　(4)『河野裕子』1890円・青磁社　(5)『これなんてよむ？』1365円・ポトス出版　(6)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋　(7)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局　(8)『自閉症の子どもたちの生活を支える』1575円・筒井書房　(9)『まめたろう』1680円・東京子ども図書館　(10)『戦国の聖地を巡る』1260円・サンライズ出版　(11)『赤いおおかみ』2415円・古今社　(12)『浅田家』2730円・赤々舎　(13)『広田弘毅の笑顔とともに』1785円・弦書房　(14)『イエスの涙』1995円・アートヴィレッジ

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　２月号』420円・東京かわら版　(2)『本と酒と俺　１号』500円・田中都麦　(3)『円周率100万桁表』330円・暗黒通信団　(4)『歌集　てんとろり』1365円・書肆侃侃房　(5)『路線バス　終点の情景』1680円・クラッセ　(6)『広田弘毅の笑顔とともに』1785円・弦書房　(7)『山陰の古事記　謎解き旅ガイド』500円・今井出版　(8)『ノー・フューチャー』2940円・洛北出版　(9)『「門司港」発展と栄光の奇跡』2100円・書肆侃侃房　(10)『マビヨン通りの店』2100円・編集工房ノア

［ジュンク堂書店新宿店―センター扱い図書］※センター出荷データより／税込み価格

(1)『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃんと瀬田なつき』735円・ｎｏｂｏｄｙ編集部　(2)『あくなき向上心』1575円・どう出版　(3)『だいたい四国八十八ヶ所』1680円・本の雑誌社　(4)『高良健吾　海　鈴木心』2940円・赤々舎　(5)『昭和プロレスマガジン　２２』1000円・昭和プロレス研究室　(6)『本と酒と俺　１号』500円・田中都麦　(7)『電験３種超過去門　平成２３年度版』420円・エコテクノ出版　(8)『河野裕子』1890円・青磁社　(9)『歌集　てんとろり』1365円・書肆侃侃房　(10)『地球惑星科学入門』2940円・北海道大学出版会

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
http://www.bekkoame.ne.jp/~much/

トピックス ―― ★★★

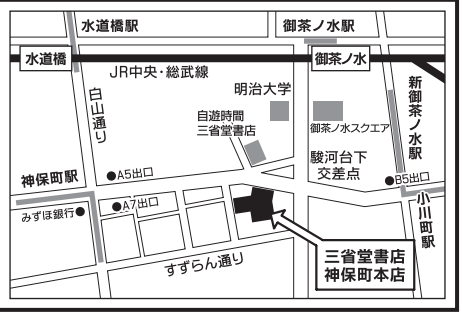
▼ 映画『太平洋の奇跡』関連本

ドン・ジョーンズの長編実録小説『タッポーチョ「敵ながら天晴」大場隊の勇戦512日』が原作となって映画化され、今年２月に公開された映画『太平洋の奇跡　ーフォックスと呼ばれた男ー』の主人公・大場栄とその妻が日中戦争の最中にやりとりした手紙が発見され、本になりました。『戦火のラブレター』(これから出版刊1890円) がそれで、とてもタイムリーな時期の刊行となりました。以下本書帯文より。「大場栄は蒲郡市出身で豊橋の小学校教師。1937年に妻と一人息子を残して日中戦争に徴兵される。1944年にサイパン玉砕後、残存兵を組織し、アメリカ軍と戦い続ける。その戦いが2011年に映画化された。映画化の中で、栄と妻が交わした日中戦争時の手紙が発見される。65年前の古びた手紙の束から、二人の青春がきら星のようによみがえった。それは燃えるようなラブレターであった。…」本書が映画をより楽しむための一助となることを期待したいと思います。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。